

夏休み防災未来教室（人と防災未来センター） 「六甲山の災害展 2015」の開催

農政環境部治山課、神戸県民センター六甲治山事務所・神戸土木事務所

1. はじめに

大都市に隣接する六甲山では、昔から幾度となく、豪雨や地震により、土砂災害等が発生しており、以前より治山ダム等の施設整備が進んでいきます。しかし、近年の異常な気象条件下では、土砂災害の発生する確率が年々高まっています。その一方で、平成27年7月の台風第11号において、神戸市内約11万人に避難勧告が出されましたが、避難者は約270人と危機意識や避難のあり方等の課題が浮き彫りになりました。

これまでは、行政からハザードマップの配布や広報誌等を通じて、危険情報や災害時の避難行動等の発信を行ってきましたが、県民の理解度や行動力には温度差があり、改めて減災対策の困難さを感じました。そこで、今年度の災害展は、夏休みの8月11日から23日まで13日間開催し、来場された方と一緒にパソコンを操作するなど、対話型の普及啓発に努めました。



展示会場の状況

2. 防災意識の向上

いざという時は、自分の命を守るために、危険な場所を知り、安全な場所へ避難することが防災の第一歩です。会場に設置したパソコンで、実際に「CGハザードマップ」を来場者に操作してもらい、自宅周辺の危険箇所や避難場所を調べたり、避難判断に役立つリアルタイムの観測情報の閲覧操作を実践してもらいました。

また、操作終了後は、スマートフォンへの「CGハザードマップ」登録をお願いしました。



避難所を調べる小学生

3. 体験装置

土石流の発生等の仕組みが3D映像で見られる『3D立体映像装置びっくり館』とジオラマで土石流を再現する『土石流実験装置』の実演は今年も大変人気があり、3Dの立体映像と音響の大迫力には、土石流の恐ろしさをリアルに体感できると

好評でした。平成26年の広島災害や丹波災害の報道を思い出しながら、「家の近くには、同じような山がたくさんあり、土石流の怖さがわかった」と来場者の方々は興味深く話されていました。



賑わう3D立体映像装置



熱心に観察する子供たち

4. おわりに

来場者へのアンケート結果によると、来場した神戸市民の約40%から「避難場所を知らなかった」、若しくは「自分のいる地域に避難勧告が出ているかどうか分からなかった」と回答を得ました。行政からの情報を、県民一人一人に伝えることがいかに難しいかを痛感しました。

減災対策は、即効性のある施設整備とは異なり、県民の皆さんが理解して、行動して初めて効果が発揮されます。今年度の開催から、国土交通省近畿地方整備局六甲砂防事務所、神戸市建設局も参画していただいております。六甲山に関わる関係機関が一体となって、防災、減災について、理解しやすく、実際の避難行動に反映してもらえるよう普及啓発活動に取り組んでいきたいと考えています。